

# 派遣法改正案 審議入り

## 「非正規固定化の恐れ」

現行最長三年となっている企業の派遣労働者の受け入れ期間を事実上撤廃する労働者派遣法改正案が二十八日、衆議院本会議で審議入りし、趣旨説明と質疑を行った。安倍晋三首相は「派遣会社に計画的な教育訓練などを義務付け、正社員になるなど働き続けられるよう措置を強化する」と強調した。政府・与党は国会での成立を目指す考えだが、非正規雇用を固定化させる恐れがあり、野党からは廃案を求める声が相次いだ。

「え」と反論。派遣で働く人の六割は女性。本場に女性が多い社会を目指しているのかとも追及した。共産党の高橋千鶴子氏は「首相が目指す世界で一番企業が活動しやすい国とは、今以上に労働者が大切にされない国なのではないか」と廃案を求めた。維新の党の柿沢未途氏は、雇用形態に係らず同じ仕事なら同じ賃金を実現する法案を独自に提出することを表明した。

本会議で、塩崎恭久厚生労働相は「キャリアアップ支援の仕組みをもつけ、派遣労働者の雇用の安定と保護を図る」と法案の意義を説明。首相は「生涯派遣の

は「臨時的・一時的」な働き

たは、をとな  
し入望こく  
定られ希すなく  
安とさにださ  
れ、事保将来い  
仕保将来い  
見がで  
るの  
も  
一  
一  
は  
は  
の  
賃  
別  
的  
取  
行  
た  
の  
か  
う  
の  
安  
倍  
の  
し  
か  
し  
、  
口  
先  
で  
し  
よ  
う  
と  
い  
う  
の  
で  
あ  
る  
。  
女  
性  
勞  
働  
者  
の  
多  
く  
は  
非  
正  
規  
雇  
用  
に  
閉  
じ  
込  
め  
ら  
れ  
て  
い  
る  
。  
そ  
し  
て  
多  
く  
が  
派  
遣  
勞  
働  
し  
か  
働  
く  
す  
べ  
も  
な  
い  
の  
で  
あ  
る  
。  
こ  
の  
派  
遣  
法  
改  
悪  
は  
無  
制  
限  
に  
派  
遣  
勞  
働  
を  
拡  
大  
す  
る  
こ  
と  
は  
明  
ら  
か  
で  
あ  
る  
。  
受  
け  
入  
れ  
企  
業  
に  
と  
つ  
て  
雇  
用  
責  
任  
も  
な  
く  
、  
い  
つ  
で  
も  
契  
約  
を  
解  
除  
で  
き  
る  
と  
い  
う  
、  
実  
に  
使  
い  
勝  
手  
の  
良  
い  
働  
か  
せ  
方

全労協fax情報 NO.1669 2014年10月30日(木) 全労協事務局発行 TEL 03-5403-1650

### 労働者派遣法改悪案が審議入り!

# 低賃金、雇用不安、一生派遣

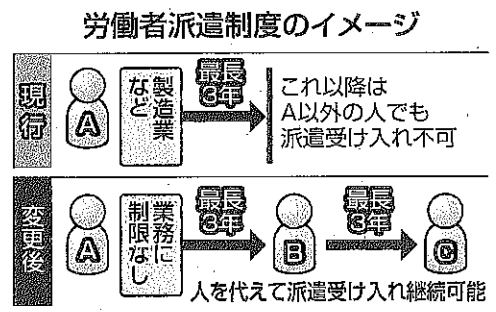
10月31日(18:00~19:30)国会に結集し、怒りで包囲しよう!  
10月31日(金)、11月5日(水)、11月7日(金)【衆院・厚労委の日程】を連続した国会闘争で**廃案**に追い込もう!

10月28日、衆議院本会議で労働者派遣法改悪案の趣旨説明が行われ、10月29日から厚生労働委員会で審議が始まった。政府は経団連など財界の意を受けて、この改悪案をなんとしても今国会で成立を図るために、11月7日までは衆議院を通過させ、参議院の審議に移すことを要求しているという。そして強行採決をもちらつかせている。私たちは拙速な審議を許さず、国会に労働者の真の声を届け、絶対に廃案に追い込む闘いを展開しよう。10月31日国会包囲大行動を成功させ、連続闘争に一人で多くの仲間が参加しよう。

### 10月29日、全労働団体(連合、全労連、全労協etc)が国会前で抗議行動を展開!

10月29日、国会議員会館前は色とりどりの旗で埋まり、安倍政権に激しい抗議の声をぶつけた。連合は朝9時から座り込みを開始し、全労協や全労連、MIC(マスコミ文化情報労組会議)などで共同闘争を進めている「安倍政権の雇用破壊を許さない共同アクション(雇用共同アクション)」も12時から議員会館前に結集して座り込みと抗議行動を展開した。

労働者派遣法は雇用の原則である直接雇用、安定雇用を破壊し、派遣会社のピンハネを許し、労働者には「雇用不安・低賃金・無権利」労働を強要するものとして、臨時的・一時的な業務に限るとされてきたのである。しかしこの改悪案では前述した常用代替禁止の原則さえ破壊しようというものである。労働者は低賃金派遣労働者として職場をたらい回しにされ、一生派遣労働に縛り付けら



2014年10月29日 東京新聞